

8-4-5 公益活動WG

1. 設置目的と組織

(1) 公益活動 WG の設置目的

本 WG は、建設コンサルタント会員全般の技術力向上と公益活動を目的として、以下の方策に取り組んでいる。

- a) 本省・国総研・土研と建コン協との技術的連携・協議事項に関する窓口機能
- b) コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- c) 発注者からの技術相談窓口の設置
- d) 国総研・土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- e) 本部・支部活動成果（技術資料）の共有ならびに発注者への配布
- f) その他 会員相互および公益に関する活動

(2) 組織

令和元年 5 月組織改編に伴い、統括技術委員会副委員長代表 4 名から構成される組織となった。活動が道路および道路構造に関する技術的事項に限定されているため、現時点では組織を縮小し、課題に関係する委員のみで構成されている。

2. 活動記録

本 WG は、本省国道・技術課、技術調査課、国総研・土研の道路・橋梁担当者及び研究者と建コン協との窓口としての活動が主である。委員自ら実施することの他に、改定道路橋示方書連絡 WG、道路橋技術相談窓口対応 WG、道路構造物専門委員会と連携して活動している。

3. 活動実績報告

(1) 共同研究の実施

a) 既設道路構造物群の維持管理計画の策定・更新手法に関する共同研究

本共同研究は、令和 4 年度に終了した「既設道路橋群の維持管理計画の継続的改善に関する共同研究」に続くものであり、実務への実装を目指し、マニュアル作成を目的とする。

WG は、①法定点検解釈基準と点検記録作成要領記入例検討、②LCC 算定要領、③道路リスクアセスメント要領の 3 つの WG から構成される。

本研究は、国総研の他、京都大学、大阪大学、京都府、茨城県との共同の下で実施されている。

b) 道路橋の性能評価技術に関する共同研究（以下性能評価）

本研究は、性能評価手法に関する研究であり、国総研、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本建設業連合会との共同研究である。中断となっており、令和 5 年度は主だった活動は行われていなかった。

c) 道路橋の立体挙動を考慮した設計法に関する共同研究

国総研・土研・橋建・PC 建協・建コン協・学識経験者等が参加する。今年度は締結に向け、準備を実施した。以下の 3 つのテーマを予定している。
①立体挙動を考慮した箱桁橋（鋼・コンクリート複合構造含む）設計法の検討②立体挙動を考慮した横構・対傾構等の部材を省略した上部構造の設計法の検討③立体挙動を考慮した非合成・合成桁構造の設計法の検討

(2) 橋梁計画便覧作成

道路協会橋梁委員会からの依頼による「橋梁計画便覧」を継続執筆中。これまでは、国総研と建コン協との 2 者で検討していたが、新たに道路協会内に WG を立ち上げ、組織的に執筆することになった。参加団体は、国総研・土研・橋建・PC 建協・日建連・NEXCO 総研・NEXCO3 社・建コンである。建コン協のメンバーは選出済みであり、初回打合せの連絡を待っている状況である。

(3) 道路橋の設計・施工に関する Web 講習会対応

改定道示道路橋示方書連絡 WG・橋建・PC 建協・日建連と協働して講習会資料作成を行った（改定道示方書連絡 WG 活動報告参照）

(4) 意見照会対応

国土交通省本省・道路協会からの意見照会対応・改定橋梁定期点検要領／道路橋床版防水便覧

(5) 道路協会委員選出対応

道路協会橋梁委員会傘下の小委員会に所属する WG の改編に伴い、建コン協選出委員の再確認と委員追加に対応した。

4. 次年度の活動について

令和 5 年度と同様に国総研・国交省との窓口機能を果たすとともに、令和 5 年度活動を継続する。

（公益活動WG WG 長 鈴木 泰之）